



JAMCA ニュース

No.112

2022年1月1日

発行
協会事務局

全国自動車大学校・整備専門学校協会

〒160-0015 東京都新宿区大京町 31

ヴィップ新宿側 ☎ 03-3356-7066

編集事務局

〒125-0002 東京都葛飾区西亀有 3-28-3

☎ 03-3601-2535 FAX 03-3601-2988

ホームページアドレス <http://www.jamca.jp/>

止まらぬ温暖化と次世代自動車整備士の育成

専門学校 神奈川総合大学校 理事長 鈴木 朝子
全国自動車大学校・整備専門学校協会 理事



気候変動に対する議論が益々高まっている。世界各地で干ばつや洪水など地球温暖化が原因とみられる災害が多発して、今や人類の大きな脅威となっている。温暖化は温室効果ガス、その中でも二酸化炭素の増加が最大の要因であるといわれている。国連の気候変動に関する政府間パネル (IPCC) が、昨年8月に公表した報告書では「人間の影響が大気、海洋及び陸域を温暖化させてきたことには疑う余地がない」と従来よりも踏み込んだ表現となっている。また第21回気候変動枠組条約締約国会議 (COP21) に採択されたパリ協定では、「世界的な平均気温上昇を産業革命以前に比べて2度を下回る水準に抑制し、1.5度以内に抑えるよう努力する」とした取組が決定されている。

温暖化の主因である二酸化炭素を日本は中国・アメリカ・インド・ロシアに続いて世界で5番目に多く排出している。菅首相は一昨年、2050年に二酸化炭素など温室効果ガスの実質排出ゼロをめざす「2050年カーボンニュートラル」の実現を掲げた。この目標達成のため、2030年度に温室効果ガスを2013年度比46%削減を目指

すことを決め、さらに50%に向けて挑戦を続けることとしている。この実現に向け昨年7月公表された「地球温暖化対策計画 (案)」には、2030年度の排出量を産業部門で37%、家庭部門で66%削減などを実現する方針が明記された。わが国の化石燃料依存度は、2010年には81.2%と減少傾向にありましたが、東日本大震災以降再び高まり、2018年度は85.5%に増加。このため「2050年カーボンニュートラルの実現」は容易ではなく、エネルギー・産業部門の構造転換、イノベーションの創出といった取組を大きく加速することが必要とされる。

一方、運輸部門はわが国全体の二酸化炭素排出量の20%を占め、自動車はそのうちの90%を占めている。政府は一昨年12月に「グリーン成長戦略」を策定し、再生可能エネルギーの普及や水素社会の構築などとともに、自動車の電動化を「2035年までに100%を実現」と具体的な達成時期を明示した。海外ではボルボは2030年までにすべての車両をEVにする宣言し、フォルクスワーゲンは2030年までに、新車販売の50%をEVにする計画である。

英国は「エンジン車」を2030年までに禁止、また米国カリフォルニア州は2035年から販売禁止を発表している。

こうした「脱エンジン車」への流れに対応するため、自動車整備士資格の見直しや教科書の改訂が実施されると思われます。私たちには自動車整備士を育成する唯一の教育機関としてEV・FCVなどの次世代自動車に対する高度な技術に対応できる人材を育成し、世の中に送り出すことが求められています。この機会を前向きにとらえ、教材、実習設備の整備や感電リスクなど必要とされる準備をどんどん進め、それらを積極的に授業に取り込み、未来を担う次世代自動車整備士の育成に努め、さらには持続可能な開発目標 (SDGs) 達成に向けて邁進して参りたいと思います。

CONTENTS

- 2面 カーラッピングビジネスの展望と業界が求める人材像について
- 3面 クルマ大好き!・活躍!!女子!卒業生
- 4面・5面 海外の若者に期待される整備士教育
- 6面・7面 協会トピックス・アイドルタイム・地区通信
- 8面 私の教材活用・編集後記